

平成29年度
海南市地域防災活動支援事業 実績報告
～ 内海地区～



平成30年3月
海南市

《 目 次 》

1. 概要.....	1
1. 地域支援事業の趣旨.....	1
2. 事業の目標.....	1
3. 実施概要.....	1
2. 防災研修会.....	3
1. 第1回防災研修会.....	3
1. 概要.....	3
2. 実施風景.....	4
2. 第2回防災研修会.....	6
1. 概要.....	6
2. 実施風景.....	6
3. 防災マップの作成と地区の取組の検討結果.....	8
4. わが家の避難マップ.....	10
3. 第3回防災研修会.....	18
1. 概要.....	18
2. 実施風景.....	18
3. 内海小学校防災学習会.....	20
1. 概要.....	20
2. 実施風景.....	20
4. 防災訓練.....	21
1. 概要.....	21
2. 訓練時の状況.....	21
5. 訓練報告会.....	24
1. 概要.....	24
2. 実施風景.....	24
3. 訓練の振り返り結果.....	27
6. 訓練後アンケート結果.....	40
7. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について.....	49

1. 概要

1. 地域支援事業の趣旨

南海トラフ地震に備え、地震発生時の適切な行動や津波からの避難行動を身に付けるため、地域の大半が浸水想定区域である重点地区（内海地区）を対象に、津波避難訓練を実施する。

訓練当日は、防災行政無線放送により「大津波警報」が伝達され、地域住民は研修会で想定した避難のタイミングや避難経路に従い、訓練に取り組むことで、それぞれが災害時に必要となる避難行動を確認する。また、地区の学校と連携した取組を進める。

2. 事業の目標

平成24年度に実施した、津波から「逃げ切る」訓練を一步進め、自主防災組織や住民ごとに、具体的な避難行動とそのタイミング、要配慮者の支援、避難場所から避難所への避難（二次避難）を想定し、災害時の体制と行動を整理することで、地域住民一人ひとりの「自助」「共助」の精神の育成を図る。

3. 実施概要

(1) 防災研修会

【第1回】

日時	平成29年8月25日（金）19:00～21:00
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
内容	1. 主催者挨拶 2. 学識経験者による講演 3. ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉 4. 第2回防災研修会の予定と準備について

【第2回】

日時	平成29年9月24日（日）15:00～16:30 ※研修会開催前（13:30～14:30）に各地区でまち歩きを実施
場所	内海公民館 2階 大会議室
内容	1. 重点地区防災研修会・訓練スケジュールについて 2. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、取組の検討〉〈避難時の地区の体制と具体的な行動の協議〉

【第3回】

日時	平成 29 年 10 月 11 日 (水) 19:00～21:00
場所	内海公民館 2階 大会議室
内容	1. 訓練当日のスケジュール・内容について 2. 内海小学校の取組について 3. 要配慮者の支援方法について 4. 訓練までの準備事項等について

(2) 内海小学校防災学習会

日時	平成 29 年 8 月 29 日 (火) 10:45～12:20
場所	内海小学校 教室
内容	1. 震災・学校支援チーム (EARTH) 員による講話

(3) 防災訓練

日時	平成 29 年 11 月 12 日 (日) 9:00～10:10
場所	内海地内
内容	津波避難訓練

(4) 防災訓練報告会

日時	平成 29 年 11 月 28 日 (火) 19:00～21:00
場所	内海公民館 2階 大会議室
内容	1. 主催者挨拶 2. 訓練当日の地区の取組について各地区の報告 3. 訓練について市からの報告

2. 防災研修会

1. 第1回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年8月25日（金）19:00～21:30
場所	海南保健福祉センター 2階 多目的ホール
参加者	地区参加者 50名 職員参加者(津波緊急避難ビル配備職員等) 5名 合計 55名
内容	<ol style="list-style-type: none">主催者挨拶 研修会の開催趣旨の説明学識経験者による講演 テーマ「自然災害に対して地域・地区で取り組む」 公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 人と防災未来センター 研究部 主任研究員 荒木 裕子 氏ワークショップ〈防災マップを用いた避難行動の検討〉 ・各地区ごとにグループ員で、地区で想定する避難場所・避難路、 避難行動のタイミング、要配慮者の支援、二次避難について協議 し、大判（A0）防災マップに記載第2回防災研修会（まち歩き）の予定と準備について ・次回第2回防災研修会の実施日程・内容について案内 ・第1回防災研修会で作成した地区の防災マップをもとに、避難 路の危険箇所等を第2回防災研修会で反映させるための、事前 のまち歩きを依頼

2. 実施風景

(1) 主催者挨拶、学識経験者による講演



主催者挨拶



学識経験者による講演

(2) ワークショップ（各地区の防災マップ作成）の様子



1区〔大須賀、蓬萊〕



2区〔宮ノ浜、糺〕



3区〔船津北、船津南、船津浜〕



4区〔東出、日限〕



5区〔藤白北、藤白南〕

2. 第2回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年9月24日(日) 15:00~16:30 ※研修会開催前(13:30~14:30)に各地区でまち歩きを実施
場所	内海公民館 2階 大会議室
参加者	地区参加者 50名 職員参加者(津波緊急避難ビル配備職員等) 6名 合計 56名
内容	1. 重点地区防災研修会、訓練スケジュールについて 第2回研修会及び今後の流れの説明 2. ワークショップ〈まち歩き結果の防災マップへの落とし込み、 取組の検討〉〈避難時の地区の体制と具体的な行動の協議〉 ・まち歩きで確認した避難路の危険箇所等を、第1回防災研修会 で作成した防災マップに反映 ・まち歩きで確認した危険箇所等についての問題点とその対策に ついての協議 ・第1回防災研修会で作成した地区の取組における体制と具体的 な行動について協議 ・体制と具体的な行動に対する問題点とその対策について協議

2. 実施風景

(1) まち歩き、ワークショップの様子



藤白神社周辺



日限地藏周辺



内海保育所周辺



ワークショップの様子



ワークショップの様子

※第2回防災研修会では、船津浜、宮ノ浜、藤白南自治会の3自治会が、合同で訓練等を実施していることから、3自治会で一つの防災マップの作成等を実施した。

3. 防災マップへの落とし込みと地区の取組の検討

※作成した防災マップ【例：糺自治会】

①避難場所・避難経路と避難路の問題点、要配慮者、二次避難の確認



- ・避難場所（日限地蔵周辺）までの避難経路をマーカーで記入
- ・各自治会内で避難時に支援が必要と考えられる家庭をマーカーで着色
- ・避難場所から避難所までの避難が可能かどうか確認、マーカーで記入

②まち歩きを実施し注意を要する箇所に対する対策の検討

まち歩きの結果における問題点と対策 整理シート① (糺) 班数: 8 班

番号	問題点の具体的な内容	対策(どうすれば)
①	上り坂のため、車イスでの避難に支援が必要	・車イスの方の支援を複数で行う
②	道が細く、災害時通れない可能性がある	・代わりの避難ルートも考え、訓練等で時間を確認しておく
③	古いブロック塀が続いているので、倒れてくる可能性がある	・ブロック塀から離れて歩く ・道が細いので、代わりの避難ルート、またかかる時間も確認しておく。
①	建物倒れかいて道がふさがる 迂回路なし	対策なし
③	小学校の土止め(石積み)がくずれの恐れ	小学校内を通る
③	①と同じ 迂回路有	迂回路を通る
④	小学校のブロック塀の倒れかいての恐れは	迂回路を通る
⑤	鉄道高架の倒れかいての恐れは	〃

- ・まち歩きの実施し、注意を要する場所の内容を記入
- ・問題点に対する対策を協議

③津波の到達予想時間の確認、地震発生後の取組、二次避難先の避難所の確認

(組) 防災マップ 協議用記入用紙

① 地区の想定する避難場所	② 自治会内に津波が到達する時間	③ 地震発生後の地区の取組みの想定(時系列)					④ 避難生活を行う避難所
		地震発生後 ~15分後	15分後 ~30分後	31分後 ~45分後	46分後 ~60分後	61分後以降	
日限地蔵 周辺 (山頂)	50 55 60 65	・緑カートを出す (Uターン行動開始 出撃へ家)	車イスを押す リヤカーと資材	日限山頂に到着(始り)	避難者の確認	内海保育園 (車庫集会所)	
日限地蔵 周辺 (山頂)	50 55 60 65	・緑カートを出す (Uターン行動開始 出撃へ家)	車イスを押す リヤカーと資材	日限山頂に到着(始り)	避難者の確認	内海保育園 (車庫集会所)	

- ・ 地区ごとの津波の到達予想時間を確認
- ・ 地震発生後の地区の取組み（声かけ、救助・救出等）を想定し、取組みを行う時間帯ごとに記入
- ・ 避難生活を送る避難所（二次避難先）を想定

④津波の到達時間から、地区が想定する取組の体制と具体的な行動の検討、課題・対策の協議

地震・津波発生時の地区の取組(体制と行動)及び問題点と対策 整理シート② (組)

避難中 避難後	地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	課題(問題点)	対策(どうすれば)
避難中	・緑カートを (避難行動開始 7分後)	15分後	同一班の人の声かけ		・水と水の避難場所を ・避難者との連絡が 確認して	
避難中	車イスを押す リヤカーと資材	16分後 30分後	避難者と一緒に (同一班の人の声かけ)	避難者のサポート	連絡がとれていない ・避難者の連絡が 確認して	
避難後	日限山頂に到着 (始り)	31~45 分後	避難者の確認 (班ごと)	・避難者との 連絡がとれていない	・避難者との連絡が 確認して	避難者との連絡がとれていない ・避難者との連絡が 確認して
"	"	46~60分	"	"	"	"
"	"	61分後	"	"	"	避難者との連絡がとれていない ・避難者との連絡が 確認して

* 避難所への移動をいつ行うか

- ・ 地区が想定する取組に対し、避難中・避難後における体制（誰が）と具体的な行動（どのように行う）を検討し、記入
- ・ 体制と具体的な行動に対する課題（問題点）と対策（どうすれば）を協議し、記入

4. わが家の避難マップ

津波の到達時間、避難時の注意すべき箇所を記載した「わが家の避難マップ」を各世帯に配布。

地図面（表面）は各世帯による避難場所、避難ルートを記入。

啓発面（裏面）は津波時の避難行動等の知識習得、災害時の行動を整理し記入。

マップ番号	自治会名
内海地区01	藤白南
内海地区02	藤白北
内海地区03	日限
内海地区04	東出
内海地区05	大須賀、蓬萊、糺、船津北、船津南
内海地区06	宮ノ浜、船津浜

わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

内海地区 01

到達予想時間(分)



凡例

津波緊急避難ビル

津波避難場所

指定避難所

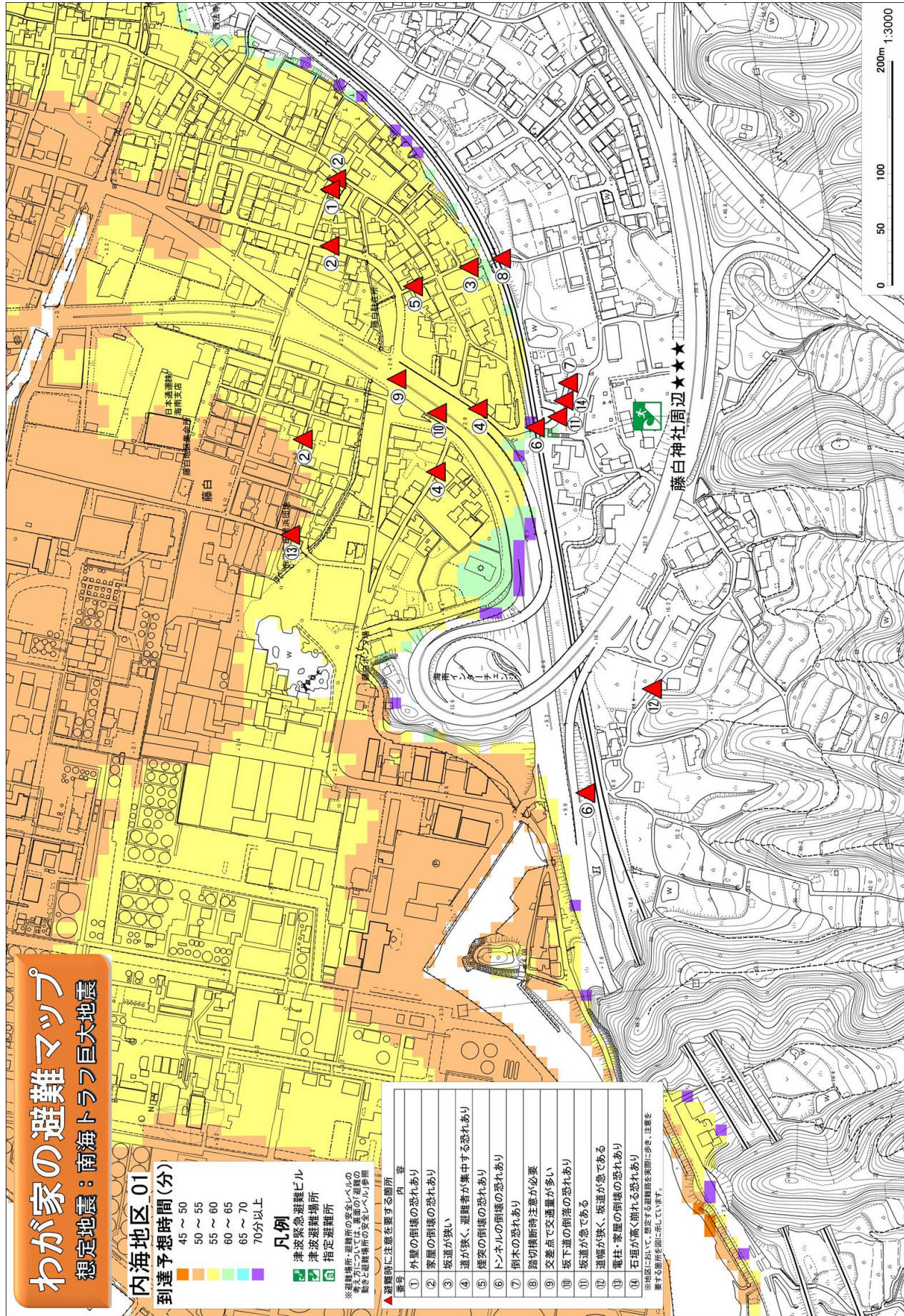
※避難ビル・避難所の安全レベルの
考え方については、東海・東南海の
動土と避難場所の安全レベル参照

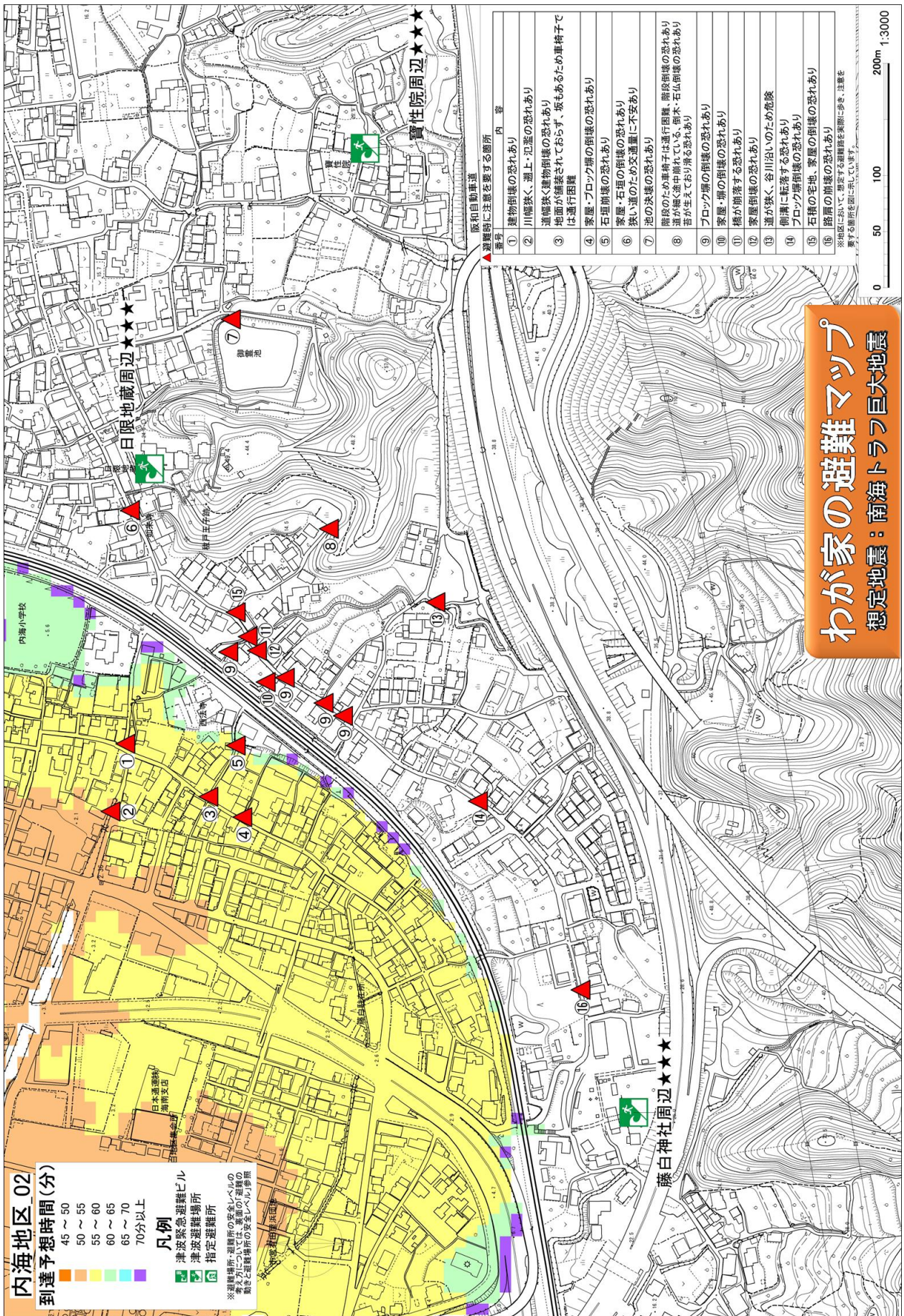
▲ 避難時に注意を要する箇所

内 容

- ① 外壁の倒壊の恐れあり
- ② 家屋の倒壊の恐れあり
- ③ 坂道が狭い
- ④ 道が狭く、避難者が集中する恐れあり
- ⑤ 煙突の倒壊の恐れあり
- ⑥ トナリの倒壊の恐れあり
- ⑦ 樹木の倒壊の恐れあり
- ⑧ 踏切横断時注意が必要
- ⑨ 交差点で交通量が多い
- ⑩ 坂下道の倒壊の恐れあり
- ⑪ 坂道が急である
- ⑫ 道幅が狭く、坂道の倒壊の恐れあり
- ⑬ 電柱・電線の倒壊の恐れあり
- ⑭ 石垣が潰れ倒れる恐れあり

※地区において、想定する避難経路を参照し、注意を要する箇所を図に示しています。





わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

- 阪和自動車道 避難時に注意する箇所 内 容
- ① 建物倒壊の恐れあり
 - ② 川幅狭く、湖上・氾濫の恐れあり
 - ③ 道幅狭く建物倒壊の恐れあり
地面が崩壊されおらず、坂もあるため車椅子では通行困難
 - ④ 家屋・ブロック塀の倒壊の恐れあり
 - ⑤ 石垣倒壊の恐れあり
 - ⑥ 家屋・石垣の倒壊の恐れあり
 - ⑦ 狭い道のため交通量に不安あり
 - ⑧ 池の決壊の恐れあり
降除のため車椅子は通行困難、階段倒壊の恐れあり
道が細く海中崩れている。御木・石山倒壊の恐れあり
苔が生えており滑る恐れあり
 - ⑨ ブロック塀の倒壊の恐れあり
 - ⑩ 家屋・塀の倒壊の恐れあり
 - ⑪ 橋が崩落する恐れあり
 - ⑫ 家屋倒壊の恐れあり
 - ⑬ 道が狭く、谷川扱いのため危険
 - ⑭ 側溝に転落する恐れあり
 - ⑮ ブロック塀倒壊の恐れあり
 - ⑯ 石積の宅地、家屋の倒壊の恐れあり
 - ⑰ 路肩の倒壊の恐れあり
- ※本図はあくまで目安とする避難計画を基に作成されています。実際の避難計画は、避難所、避難経路、避難物資の確保を事前に確認し、注意を要する箇所を留意してください。

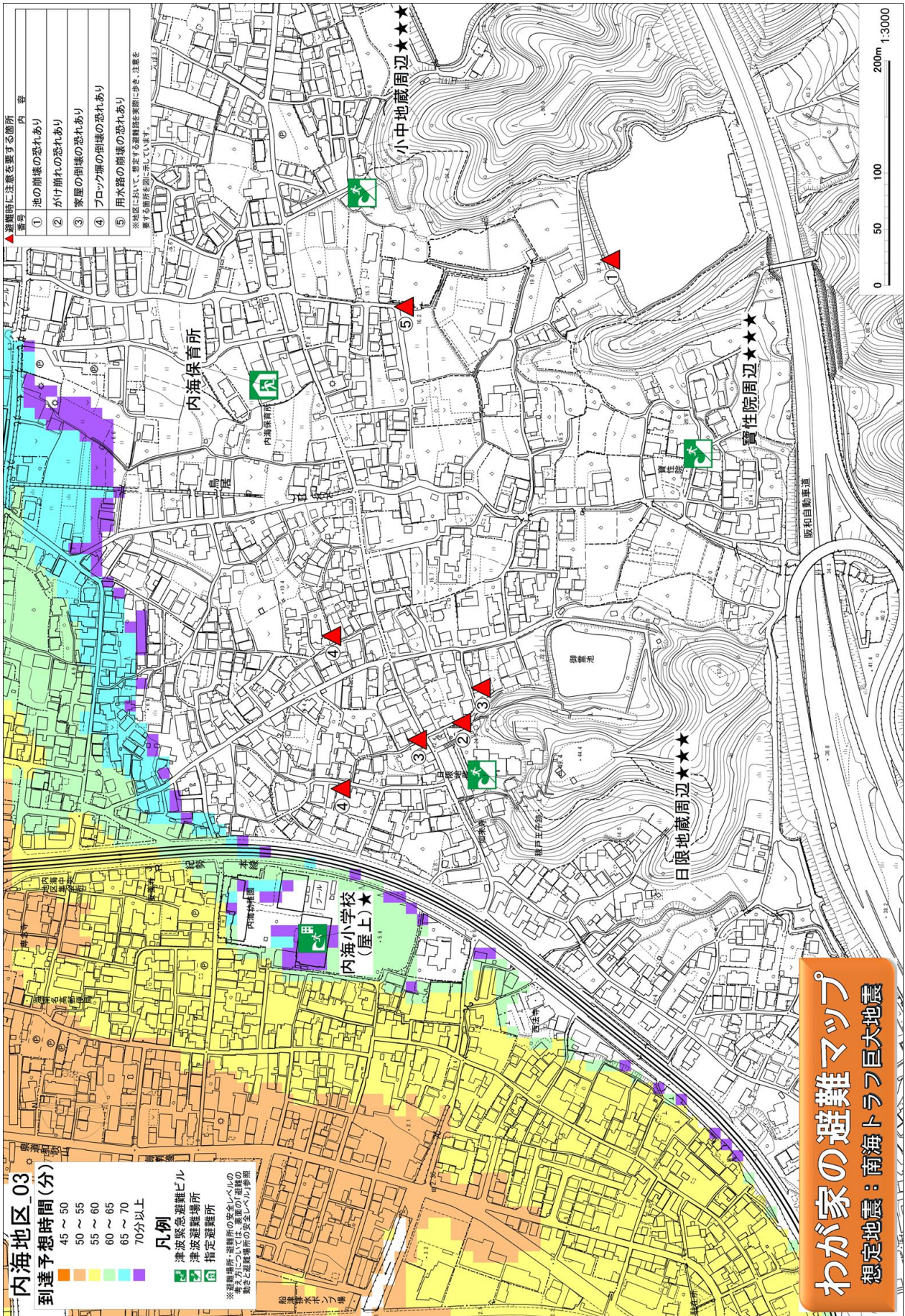
内海地区 02
到達予想時間(分)

45 ~ 50
50 ~ 55
55 ~ 60
60 ~ 65
65 ~ 70
70分以上

凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、本図の避難の考え方で避難場所の安全レベルは参照



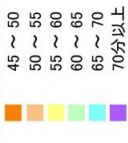
わが家の避難マップ
 想定地震：南海トラフ巨大地震

わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

内海地区 04

到達予想時間(分)

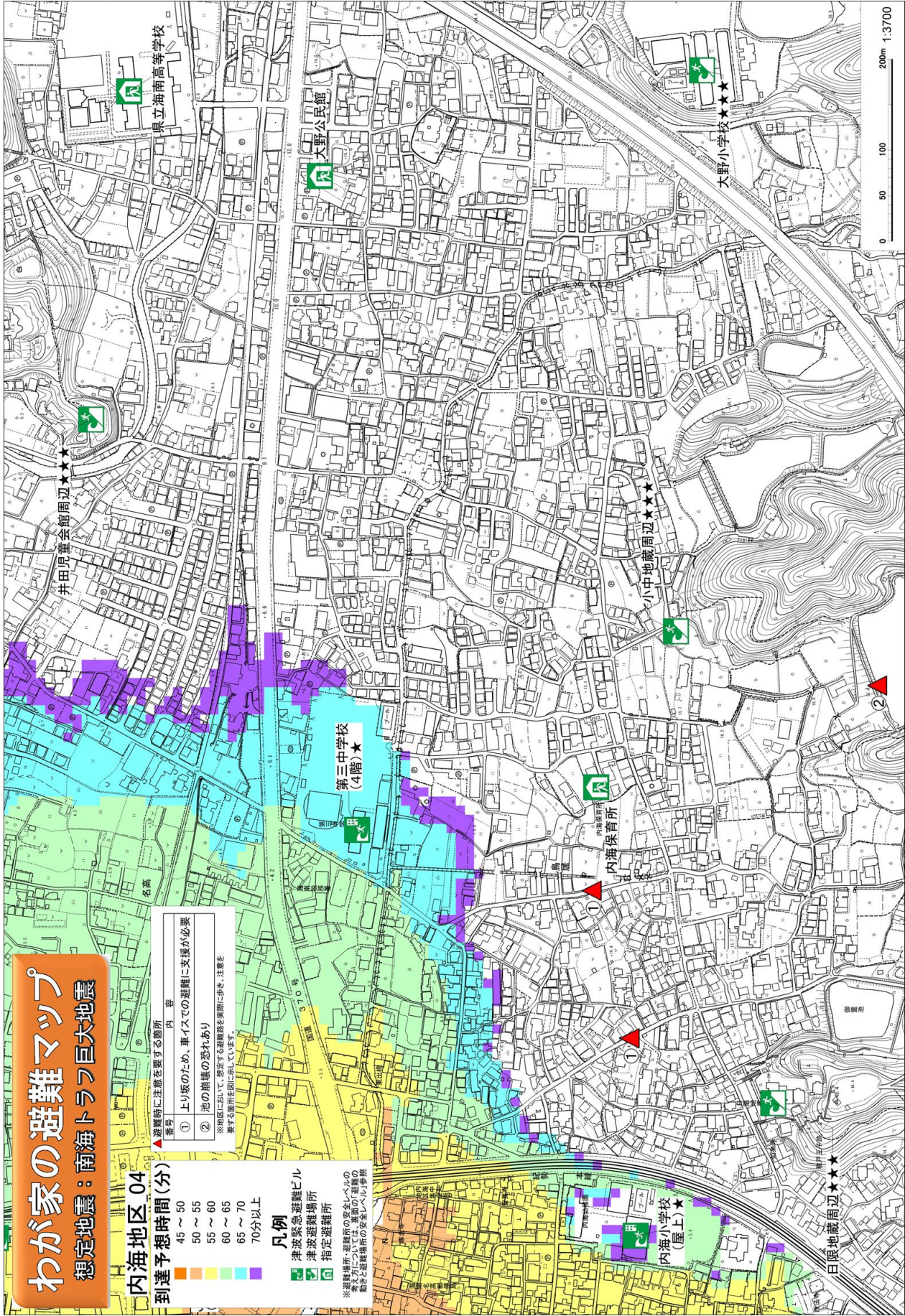


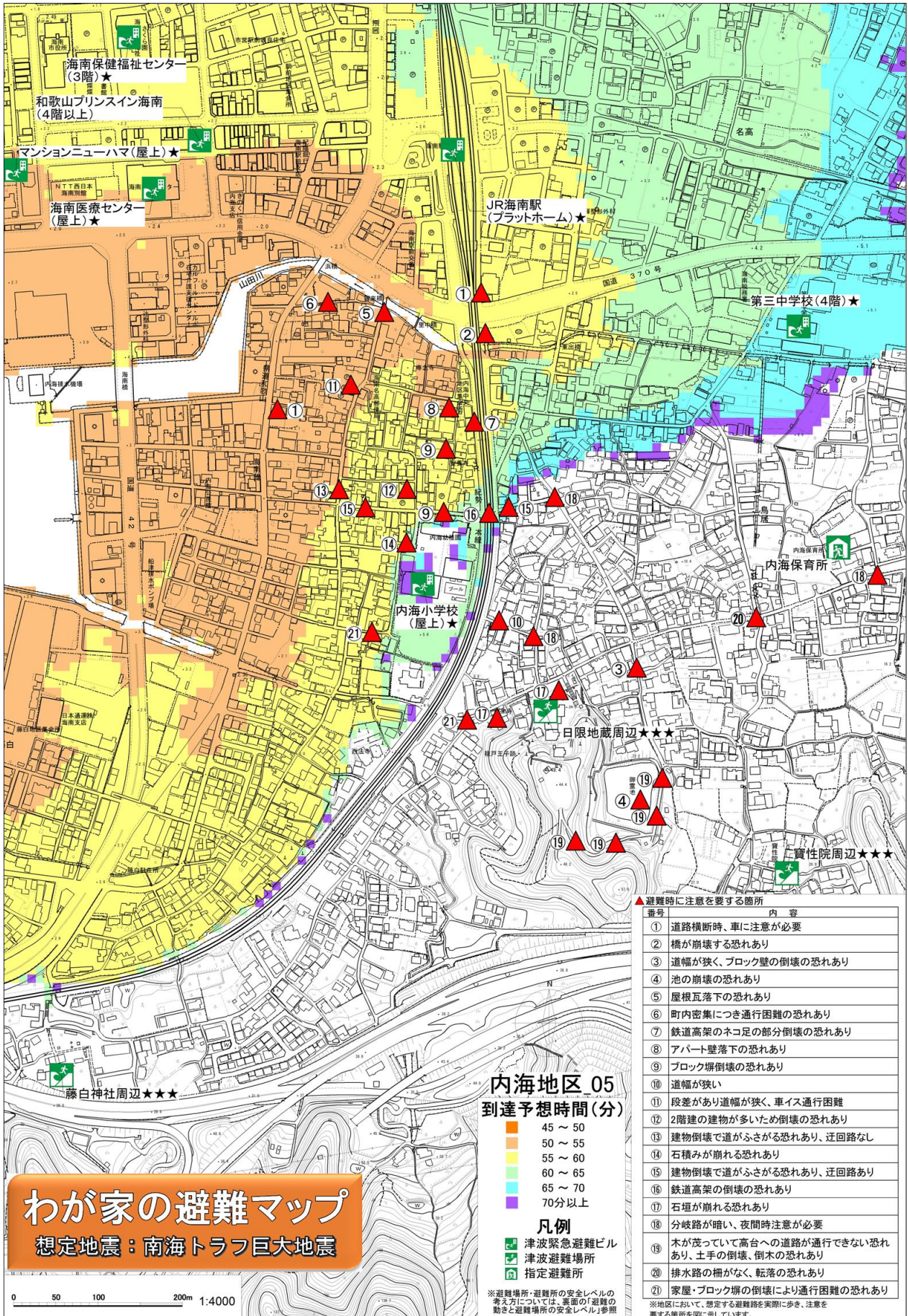
凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方には、車両の避難の可否と避難所の安全レベルが異なる場合があります。

- ▲避難時に注意を要する箇所
- | 番号 | 内容 |
|----|----------------------|
| ① | 上り坂のため、車イスでの避難に支援が必要 |
| ② | 池の崩壊の恐れあり |
- ※地区において、想定する避難経路を実際に歩き、注意を要する箇所を圈に示しています。





わが家の避難マップ
 想定地震：南海トラフ巨大地震

内海地区 05
 到達予想時間(分)

- 45 ~ 50
- 50 ~ 55
- 55 ~ 60
- 60 ~ 65
- 65 ~ 70
- 70分以上

凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、裏面の「避難の動きと避難場所の安全レベル」参照

▲避難時に注意を要する箇所

番号	内容
①	道路横断時、車に注意が必要
②	橋が崩壊する恐れあり
③	道幅が狭く、ブロック壁の倒壊の恐れあり
④	池の崩壊の恐れあり
⑤	屋根瓦落下の恐れあり
⑥	町内密集につき通行困難の恐れあり
⑦	鉄道高架のネコ足の部分倒壊の恐れあり
⑧	アパート壁落下の恐れあり
⑨	ブロック塀倒壊の恐れあり
⑩	道幅が狭い
⑪	段差があり道幅が狭く、車イス通行困難
⑫	2階建の建物が多いため倒壊の恐れあり
⑬	建物倒壊で道がふさがれる恐れあり、迂回路なし
⑭	石積みが崩れる恐れあり
⑮	建物倒壊で道がふさがれる恐れあり、迂回路あり
⑯	鉄道高架の倒壊の恐れあり
⑰	石垣が崩れる恐れあり
⑱	分岐路が暗い、夜間時注意が必要
⑲	木が茂っていて高台への道路が通行できない恐れあり、土手の倒壊、倒木の恐れあり
⑳	排水路の柵がなく、転落の恐れあり
㉑	家屋・ブロック塀の倒壊により通行困難の恐れあり

※地区において、想定する避難路を実際に歩き、注意を要する箇所を図に示しています。

わが家の避難マップ

想定地震：南海トラフ巨大地震

築地
内海地区 06

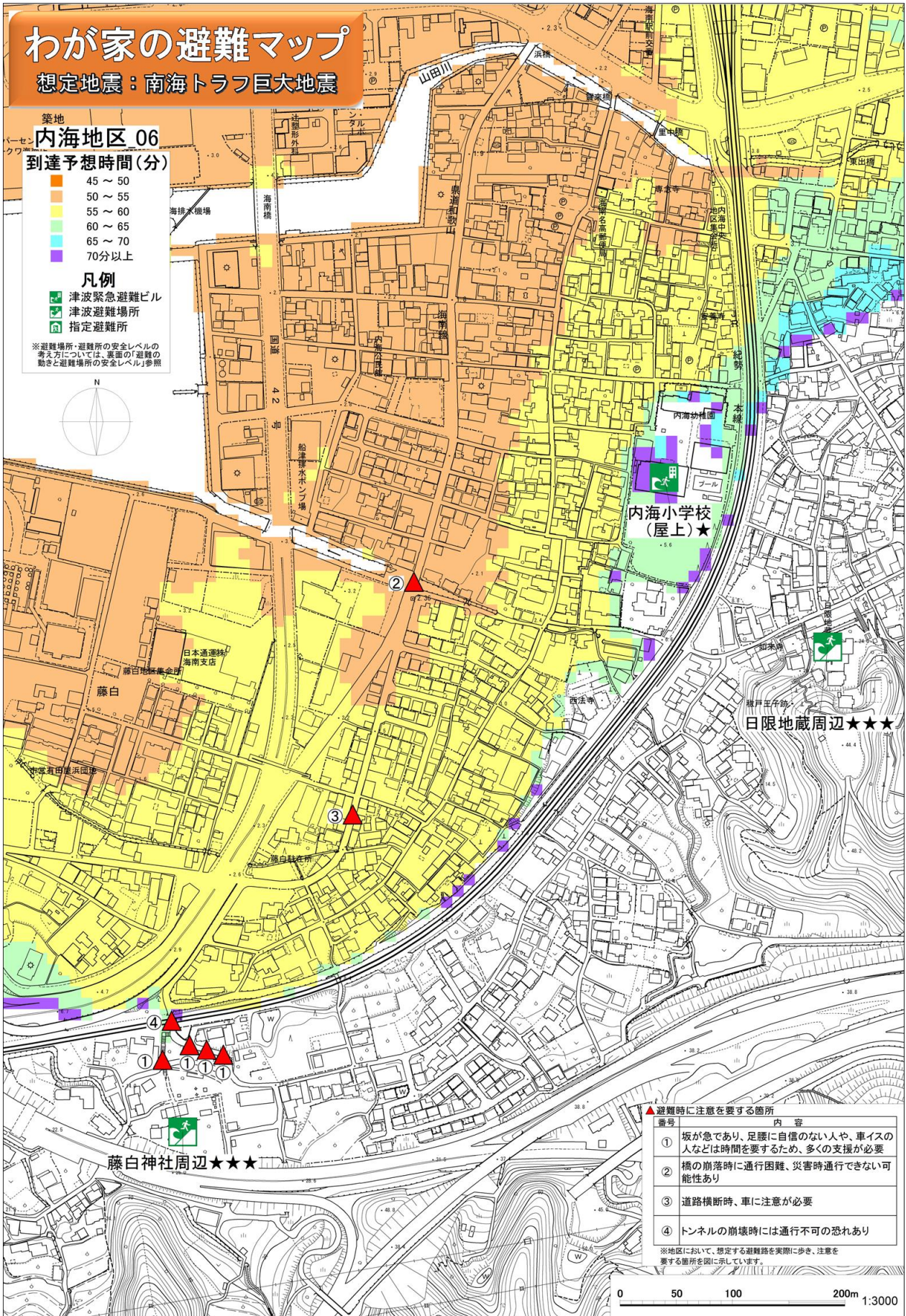
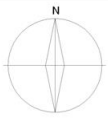
到達予想時間(分)

- 45 ~ 50
- 50 ~ 55
- 55 ~ 60
- 60 ~ 65
- 65 ~ 70
- 70分以上

凡例

- 津波緊急避難ビル
- 津波避難場所
- 指定避難所

※避難場所・避難所の安全レベルの考え方については、表面の「避難の動きと避難場所の安全レベル」参照



▲避難時に注意を要する箇所

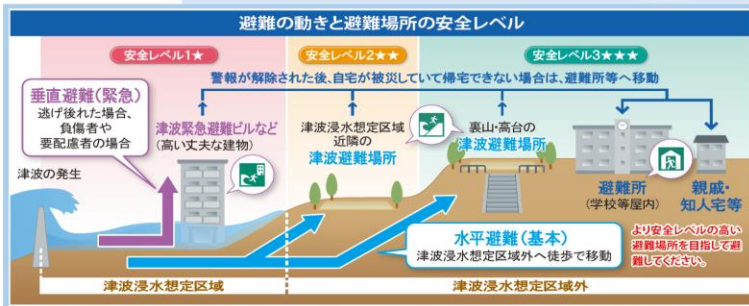
番号	内容
①	坂が急であり、足腰に自信のない人や、車イスの人などは時間を要するため、多くの支援が必要
②	橋の崩落時に通行困難、災害時通行できない可能性あり
③	道路横断時、車に注意が必要
④	トンネルの崩壊時には通行不可の恐れあり

※地区において、想定する避難路を実際に歩き、注意を要する箇所を図に示しています。

0 50 100 200m 1:3000

(啓発面)

地震・津波災害時の避難行動



津波警報・注意報の発表内容

津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「津波警報」等が発表されます。通常、予想される津波の高さは5段階の数値で発表されますが、マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合、まずは「巨大」や「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

種類	大津波警報(特別警報)		津波警報	津波注意報
予報される津波の高さの発表	10m超	10m	5m	3m
数値での発表	巨大		高い	(表記しない)
巨大地震の発生の発表				

津波緊急避難ビル:津波到達までに津波浸水域外に避難できない方が緊急に避難する建物 津波避難場所:津波の危険から逃れるために緊急に避難する場所 指定避難所:一時的な避難生活場所

避難にかかる時間を想像しよう (実際の災害時は想定どおりの避難ができない場合もあるため、おおよその目安にしてください。)

① 避難する場所	③ 自宅付近に津波が到達する時間	⑤ 避難場所への移動以外に行うことの内容・かかる時間		⑥ 避難にかかる時間(④+⑤)
	約 分	内容	時間	約 分
				⑦ 近隣の要配慮者の支援の内容
② ①の避難場所から避難所への移動	④ ①の避難場所までの移動時間			分
	約 分			分
				分

3. 第3回防災研修会

1. 概要

日時	平成29年10月11日(水) 19:00~21:00
場所	内海公民館 2階 大会議室
参加者	地区参加者 72名(うち消防団1名) 内海小学校2名(校長、教頭)、社会福祉協議会 2名 合計 76名
内容	1. 訓練当日のスケジュール・内容について ・危機管理課より訓練当日のスケジュール、実施内容について説明 2. 内海小学校の取組について ・内海小学校より、当日の訓練及び講演会の実施内容について説明 3. 要配慮者の支援方法について ・市より要配慮者の避難支援例について説明 ・社会福祉協議会より要配慮者への具体的な支援方法及び車イスの使用方法について、地区参加者の実演とともに説明 4. 訓練までの準備事項等について ・訓練までに各家庭用での「わが家の避難マップ」の配布及び作成を依頼

2. 実施風景



内海小学校の説明



社会福祉協議会の説明



車イス使用方法の説明



実演の様子



実演の様子



会長挨拶



会場の様子



会場の様子

3. 内海小学校防災学習会

1. 概要

日時	平成 29 年 8 月 29 日 (火) 10:45～12:20
場所	内海小学校 教室
参加者	5年・6年生児童 校長、教頭、5年・6年生担当教諭
内容	1. 震災・学校支援チーム (EARTH) 員による講話 テーマ「災害が起きたら」 震災・学校支援チーム (EARTH) 山路 摩美子 氏 ・本市に想定される災害や、過去の震災等の避難所生活の移り変わり、災害時における心のケアの方法について教示

2. 実施風景



防災学習会の様子 (5年生)



防災学習会の様子 (6年生)

4. 防災訓練

1. 概要

日時	平成 29 年 11 月 12 日（日） 9:00～10:10
場所	内海地内
参加者	地区参加者（小学生含む） 1,113 名 ※内海小学校生徒は、授業として、自宅より避難訓練を実施 訓練スタッフ 消防団 24 名 市職員（津波緊急避難ビル配備職員） 4 名 合計 1,141 名
内容	津波避難訓練 （テーマ）わが家の避難マップに記入した避難行動 研修で検討した地区での取組（体制と行動）に則した訓練 要配慮者の避難支援

2. 訓練時の状況

(1) 内海小学校



避難場所（内海小学校）の様子



避難場所（内海小学校）の様子



車イス避難の様子

(2) 日限地蔵周辺



避難場所（日限地蔵周辺）への避難



避難場所（日限地蔵周辺）への避難



避難場所（日限地蔵周辺）の様子



避難場所（日限地蔵周辺）の様子



避難場所（日限地蔵周辺）の様子



避難場所（日限地蔵周辺）の様子

(3) 藤白神社周辺



避難場所（藤白神社周辺）への避難



避難場所（藤白神社周辺）への避難



避難場所（藤白神社周辺）の様子



避難場所（藤白神社周辺）の様子



避難場所（藤白神社周辺）の様子



避難場所（藤白神社周辺）の様子

5. 訓練報告会

1. 概要

日時	平成 29 年 11 月 28 日 (火) 19:00~21:00
場所	内海公民館 2階 大会議室
参加者	地区参加者 26 名
内容	<ol style="list-style-type: none">1. 主催者挨拶2. 訓練当日の地区の取組について各地区の報告<ul style="list-style-type: none">・「振り返りシート」を使用し、各地区で発表3. 訓練について市からの報告<ul style="list-style-type: none">・重点地区防災訓練結果や要配慮者支援の取組、他地区・他市町村の訓練事例（「避難カード」の活用など）、海南市が実施している事業について紹介・報告

2. 実施風景

(1) 主催者挨拶



主催者挨拶

(2) 各地区の発表、市からの報告の様子



大須賀



蓬萊



糺



船津北



船津南



東出



日限



藤白北



藤白南



船津浜



宮ノ浜



市からの報告

3. 訓練の振り返り結果


※取組結果である「振り返りシート」の内容をそのまま掲載

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
大須賀	避難中	地区住民への声掛け・救助	～15分まで	ご近所・となり等各班内にて（班長？）	声掛け連絡	×	避難場所まで遠く、自治会員からは、かなりの不平不満があり、実施するのが困難となった。
	〃	要配慮者の避難支援	～15分まで	家族・ご近所各班内にて	声掛け自宅から外へ連れ出して、付き添いで避難する	×	〃
	避難後	避難場所での避難者の確認	～45分以降	自治会各組長（自治会長等）	避難者の氏名を確認する	×	〃
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）		<ul style="list-style-type: none"> ○避難場所を1か所に決めて、訓練するのは、いかがなものかと思う。 ○個人それぞれが避難場所を想定し、今後は実施したい。 				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践でき なかった場合は、その 理由（課題））
蓬萊	避難中	地域住民の避難の呼びかけ	～15分 後	自治会は (1組～6組) までである ので各組で組 長の指示に 従って実施	安否確認で きなかった 地域住民へ の各組長さ んが(1組～ 6組)に声掛 けした	○	各組で集合場所を決 め、組長が参加者名 簿で点呼を取った、 安否確認の取組を15 分以内に行うことが できた。
	〃	倒壊家屋 があれば 住民の救 助・救出 (要配慮 者の避難 支援)火 災が発生 すれば初 期消火・ 避難	～15分 後	〃	救助・救出は 近所の人に 声かけあ って協力 して避難 する(日 頃のコ ミュニ ケーシ ョンが 大事で ある) 救助道 具(ハン マー、 バ ル当 が必要 である) できる 限り自 分で用 意をし てもら う	△	避難時は組長を中心 に、周囲に声をかけ ながら避難し、組長 はあらかじめ配布し ているメガホン等で 避難を呼びかけるこ とはできた。なお、 訓練として、組での 近所どうしで声かけ をするなど、事前に 設定することができ なかったため、次回 の訓練では状況を想 定して行う。今後は 近所の実情を知っ ておくことが必要不 可欠である。
	〃	救助・救 出	～30分 後	〃	近所の人と 声を掛け あって避 難場所 の高台 や丈夫 な3階 以上の 建物に 出来る 限り付 添で避 難する	×	救助・救出は資機材 (バールや担架・)等 は自主防災会で少し 用意してはいますが 若い人材の支援者が 少ないため人数不足 につき、完璧な救助 はむつかしい。(今後 車椅子も必要不可欠 とします)

※次ページに続く

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
蓬萊	〃	要配慮者の避難支援	～45分後	自治会は（1組～6組）まであるので各組で組長の指示に従って実施	次回は近所の高と声を掛け、自宅から外へ連れ出して付添で避難するようにしていきたい。	×	実際に要配慮者の方に参加してもらえなかった、代役を立て、車椅子での避難方法も実践できなかった次回は実践し車椅子等での避難方法も実践してみたい。（今度車椅子も必要不可欠と思います）
	避難後	避難場所での避難者の確認	45分後以降	〃	一人一人参加者名簿に組と氏名を記載して頂け点呼を取った。	○	避難所まで、各組でまともって避難し、避難者参加名簿で地区が決めた（安否確認参加者名簿）を用いて、各組長が組員の名簿をチェックし、それを自主防災会長に報告することで、確認を行った。
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	<ul style="list-style-type: none"> ●救助・救出用の資機材(トランシーバー)増備購入して、連絡を取り合い各組の避難者の人数確認等に役立てたいと思います。要配慮者での避難者の意確認と要配慮者の避難支援の取組の実践ができなかったので、次回の訓練では、具体的な状況を地区で決めて取り組んでいきたい。 ●6月の広報かいなんのP3、もしもの時に、そなえて家族で話し合う5項目のポイントを確認して取り組んでいきたい。 ●9月の広報かいなんのP3、家具類の転倒防止対策を確認して取り組んでいきたい。 ●避難した目印(はた)とか対策等検討して自主防災会で取組。 ●非常時、災害時に緊急対応として便利な簡易トイレ各家庭に1台は必要不可欠につき対策等考えたいと思います。 <p>上記、蓬萊自主防災会で今後取り組んでいきたいと考えています。</p>					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果(実践できなかつた場合は、その理由(課題))
糺	避難中	・緑カードを出す (避難行動開始できた後) ・カードが出ていない家に声掛け (救助・救出、重度の人)	15分後	同じ班の人が声掛ける		△	・緑のカード提示率 86% (56/65 軒) 声をかけたが不在 ・内海小学校の「地震解除ボックスの見学・説明 あくまで緊急避難であることを周知
	〃	車椅子を押す リヤカーと資材	16分後 ～30分 後	家族の人と話をしておく(同じ班の人で協議)	近所の方がサポートをする	△	・車椅子を日限山山頂まで押す(リアカーは未実施) 乗り手・押手を交代しながら実施 平坦な道では軽く押せる 急な坂、障害物がある場合に備え押手3～4人は必要
	避難後	日限山頂に到着し始める	16分後 ～30分 後	避難者の確認(班ごとに)	点呼をとる	○	ほとんどの人が到着
	〃	〃	46～60分	〃	〃	○	・すべての人が到着 ・避難者の確認(組単位で名簿チェック)
	〃	〃	61分後	〃	名簿の作成	-	
	今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難したことを示す緑カードの提示率は向上(周りの人もふくめ出来る限り早く避難するため提示の意義を言っていく) ・訓練では「50分以内に日限山頂へ」避難できたが時間を意識しながら避難することの重要性を浸透させる ・70歳代以上が約46%と半数を占めている。支援を要する人が増え、支援できる人が減少している実態を把握するとともに出来る限り自力避難が出来るように呼びかける。 ・訓練には支援を要する方の参加が少ない。参加しやすい条件を考えていく。 ・今回内海小学校の「地震解錠ボックス」の見学、説明をした。あくまで緊急避難であることを周知しながらも様々な避難方法を考えていきたい。 <p>※重点地区防災訓練の各回ごとの参加対象が変わったり、民生委員、消防団、小学校、神戸大学等、関係団体との関係が見えづらいなど全体像がわかりにくかった。</p>					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
船津北	避難中	地区住民の安否確認	～15分後	各組の組長	各組の組長が自組内の安否確認をする	○	各両隣の協力により安否確認がスムーズにできた。
	〃	地区住民への避難の声掛け	～15分後	〃	両隣で声掛けする	○	留守の場合など事前に両隣に連絡していた為、安否確認がしやすかった。
	〃	救助、救出	～30分後	〃	出来る範囲内で救出する	×	救助救出用の資機材がなかった。
	〃	要配慮者の避難支援	～45分後	〃	対象者 1組：0 2組：5名 3組：2名(内1名寝たきり)	×	確認のみで訓練に参加できなかった。（参加により状態の悪化の恐れがある為）
	避難後	避難場所での避難者の確認	45分以降	〃	組長に事前にチェックシートを配りチェックする	○	車イスを借りて交代で避難路を通り体感した。
	〃	避難所への避難の検討	45分後以降	〃	浸水区域外を通り避難する	○	トランシーバーで連絡を取り避難を行った。名簿にて参加者のチェックをしました。
		今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)	○かくれ要配慮者の調査と確認。 ○今回の訓練で体験したことを自治会で改善に向けて検討する。 ○日限さんへ避難すると言っていました、勝手に小学校へ行った人がいた。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
船津南	避難中	安否確認	～15分後	近隣住民	声をかけながら避難する 返事がない場合、屋内目視出来る範囲の援助	○	自治会の第一次集合場所であるJR鉄道高下に集合して班長が会員家族構成表により、参加者及び不参加者の点呼安否確認を15～30後にいった。
	〃	要配慮者の避難支援	～30分後	近隣住民	声をかけ、自宅から出来る範囲で救助する	△	今回は参加者全員が自力歩行で参加したが高齢者が多い為今後に不安が残る。
	避難後	避難場所での避難者の確認	50分以降	自治会役員・会員	点呼を取る	○	世帯数20軒世帯総数45名中参加者18世帯42名 安否確認できた世帯数18世帯 総人数40名 連絡なし2世帯 参加せず5名
	今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	<p>今後、益々高齢化が進み、同時に要配慮者の方々も増加する中、我自治会会員の約70%が60歳以上であり、自力避難するのが精一杯で要配慮者に対する避難支援は声かけ以上の救助救出は困難になってくる。（老老救助には限界がある）</p> <p>大津波を伴う大災害の迅速な避難支援には、単独自主防災会だけでは対応できないので、連合自主防災会の設立を検討して頂きたい</p>					

地区	避難中 避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
東出	避難中	住民の安否確認	15分後	自治会の組長が確認	組指定の集合場所に集まり確認	○	集合場所に集まり点呼を取り確認し避難場所に移動。移動場所にて再度点呼を取り確認。少し確認に手間取ったがよくできたと思う。
	〃	避難の声掛け	15分	組長及び近隣の人	声をかけながら避難する	△	今回の訓練では会員の人には回覧板等で知らせていたが会員でない人の対処をどうしたらよいか考える。
	〃	救助・救出	30分	自主防災組織が中心	出来る範囲で救出する	×	今回の訓練では実践しなかった。
	〃	避難支援	45分	組長及び近隣の人	声掛けをする	○	要支援者の方で自力で歩ける人は自分で進んで参加し、車椅子での参加の人は遊歩道が集合場所だったので問題なく車椅子で行動を共にできた。
	避難後	避難者の確認	50分	自治会、班等で確認	点呼をとる	△	避難場にて組長が名簿を用いて確認チェックを行った。避難場所が分かれるため組としては確認できるが町内としての状況確認が遅れた。
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	○今後、町内会の会員でない人の対処を考える。 ○現在資機材置き場を三中にしているが津波の事を考えると場所の移動を検討する。				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
日 限	避難 中	避難の声 かけ	5 分後	自治会 組長	事前に決め ていた一時 避難場所に 各組毎に避 難の声かけ	○	避難は出来た
	〃	安否確認	15 分後	〃	一時避難場 所にて確認	○	大体は確認できた
	〃	要配慮者 の避難支 援	20 分後	〃	・要配慮宅を 訪問し安否 確認 ・付き添い介 護援助を行 う	○	
	避難 後	避難所へ の誘導		自治会長	内海保育園	×	
	〃	援助物資 の確保		〃		×	
		今後、地区で 取り組んで いくこと(ま たは予定)	役員会及び組長会議で訓練の問題点、課題等を話し合いそれを地区全体で共有するように取り組んでいく。				

地区	避難中 避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な行動> どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
藤白北	避難中	地区住民の安否確認	～15分後	自治会1～8組 組長1～3組	集合場所に集まり確認 安否確認後津波が来るまでなるべく早く高台に避難するが現実起きた時は家の倒壊により時間的にどうか不安である。	○	今回日限地蔵の避難場所まで距離が遠いのでJR高架下（海拔7m）で場所提供協力をお願いしておくことも良いと思う。
	〃	地区住民の安否確認	～15分後	自治会1～8組	・声を掛けながら避難する ・安否確認できなかった家に声掛けする	△	
	〃	救助・救出	～30分後		できる範囲で救出する	×	3組 細い道沿いに古い民家が立ち並んでいる為地震の規模により家や石垣のとうかにより救出も出来るか分からない。今回は訓練の為、声を掛けながら日限山まで避難しました。
	〃	要配慮者の避難支援	～30分後 ～45分後	〃 1～3組 〃 4～8組 海拔8m～18-20	今回避難場所日限山まで行く道路の溝のフタがない部分やブロックの倒壊で通れなくなる場合が心配です。	○ 1組	今回、要支援者本人の協力により、車イスで訓練に参加いただき家族と近隣の3名が付き添いをして本人宅より第1避難場所JR高架下(7m)まで行き、その場所で家族と相談して日限山まで登りました。坂道が急で、車イス押し上げるのがとても苦しかったそうです。（約25～30分）
	避難後	避難場所での避難者の確認	45分後以降				
今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）		1-3 訓練では避難場所、日限山まで20分位で行けましたが、地震の規模により家の倒壊や道路の損壊等により避難経路が通れなくなり、かなりの時間がかかる事としますので、避難方法等の選択が必要になると思います。					

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
藤白南	避難中	避難の 声かけ等	～15 分後	各組・班員	1 避難の 声かけや 笛鳴 2 状況 確認 (家屋等)	○	
	〃	各組・班 の現状	～15 分後	各組・班員	危険箇所等 の状態把握 各組長と共 に町歩きで 確認した場 所をさけて	○	
	〃	天候等 の状況	～15 分後	各組・班員	避難所への 移動 当日は晴天 であった為 問題なし	○	
	避難後	避難者の 安否確認	～30 分後	自治会・避 難者	避難者名簿 の作成・確認 あらかじめ 作成の各組 の世帯主名 簿を準備し 組長が集計	○	
	〃	避難者身 体確認	～30 分後	自治会・避 難者	1 救護活動 2 身体状況 の確認等	×	実質参加がなかったが、 家族の方から実情を確認した
	〃	天候の状 況	～30 分後	自治会・避 難者	避難所への 移動	△	市指定の避難所へは遠 すぎる為、地元の営農者 と交渉して選果場（交渉 済）の建屋を使用する予 定
	〃	避難者 物資提供	～45 分後	自治会・避 難者	防災倉庫の 開放・提供 3 自治会同 一場所に設 置有りメガ ホン等を使用 して説明	○	
	〃	天候等 の状況	～45 分後	自治会・避 難者	避難所への 移動	×	前期の通り、藤白南自治 会として選果場に移動 する予定（一次避難所か ら約150m）

※次ページに続く

地区	避難中避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制>誰が	<具体的な行動>どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果（実践できなかった場合は、その理由（課題））
藤白南	避難後	避難者安否確認	～45分後	自治会・避難者	安否の詳細・情報等取りまとめ役を決めて2つのグループの組長から報告を受けた		
		避難者身体確認	～45分後	自治会・避難者	ケガ等の状態確認等取りまとめ役から自治会長へ報告	○	
	〃	行政間の連絡等	～60分後	自治会・避難者	1 現状（避難者等）の報告 2 物資の連絡・報告 3 救護者の要請等	○	
	〃	天候等の状況	～60分後	自治会・避難者	避難所への移動なし	×	前記の通り
	〃	避難者の安否確認	～60分後	自治会・避難者	安否の状況・内容確認	○	
	〃	物資の確認	～75分後	自治会・避難者	必要物資等の状況把握 防災倉庫内確認	○	
	〃	天候等の状況	～75分後	自治会・避難者	避難所への移動	×	
		今後、地区で取り組んでいくこと（または予定）	① 組長と班長で今年より更に密な声かけを行う ② 一次避難所で、各組名のプラカードを作成高く掲げ集合しやすくすると共に、とりまとめ役の場所にも看板設置する。 ③ 歩行困難対策としてリアカーを早急に購入準備しておく				

地区	避難 中 避難 後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制> 誰が	<具体的な 行動> どのように 行う	訓練に て取組 を实践 したか	訓練の結果（実践できな かった場合は、その理由 （課題））
宮ノ浜	避難中	声かけ	発生 ～15 分後	隣近所 余裕があれば 気が付いたときに 気が付いた人に声 掛け	自治会のメガホンなど も利用して声かけ。イン ターホンを鳴らす。玄 関のドアを叩く	△	メガホンは、持参も使 用しなかった。 各家への声かけはしな かった。 参加者のみで出発（神 社へ）
	避難中	救助・救 出	～30 分後	隣近所 （できる 範囲で）	ヘルメット やロープな ど道具があ れば利用す る	△	ヘルメット使用もほか の道具なし
	避難中と 避難後	人員確認	～45 分後	①家族 ↓ ②班 ↓ ④ 治会 全体	点呼を取る	○	出席者のみの点検をと る。（班）
	避難中と 避難後	要配慮者 の避難支 援	～45 分後	できる範 囲で支援 が必要な 人に	声かけ、手 をひく など	△	車イスの方に声かける も色々付度、避難場所 までは行かなかった。
	避難後	人員確認 後 リスト作 成	～60 分後	自治会に て	不明者、安 否確認でき た者に分け て行う （できる範 囲で）	△	避難場所にて再度組長 が確認、リストは自治 会名簿で代用、実際は 不使用
	今後、地区で 取り組んでい くこと（また は予定）		特になし				

地区	避難中避難後	地区の想定する取組（体制と行動）				訓練結果	
		地区の取組の想定	いつ	<体制>誰が	<具体的な行動>どのように行う	訓練にて取組を実践したか	訓練の結果(実践できなかった場合は、その理由(課題))
船津浜		住民の安否確認	～15分後	役員や班長などが	①住民への安否確認 ②黄色のハンカチの有無を目視確認 ③ハンカチ無しの家は声かけ ④救助、救出	△	あらかじめ住民の世帯調査を行い事前に名簿作成しておいた。
		救助救出	16分～30分後	隣近所相互が	①救助、救出 ②安否確認後、全員で避難開始	×	今回は集合場所に集合してではなく、てんでんこに、実際の地震を想定して個人で避難してもらい危険箇所に関員が立ちトランシーバーを使い確認作業を行った。
			31分後～45分後	健常者・若年者が	①要配慮者の避難支援	○	あらかじめ福祉協議会の車椅子を2台用意し、要配慮者2名にお願いして車椅子に座って頂き実際に押しながら避難した。通常ルートが使えない場合は、坂道が多少困難があった。
			46分後～60分後	自主防災会の役員が	①区住民の名簿により避難者の確認	○	名簿を使い避難場所において、住民の確認を行った。3地区の避難場所であるのでごったがえしており、確認作業が困難であった。避難リュックやヘルメットに目につく色やマークを付ける必要があると思う。拡声器が役立った。
			61分以降		①情報収集にあたる ②自治会連合自主防災会が合議の上で今後の行動を決定する	×	11/28 現在まだ3自治会連合での会議は、なされていない。
		今後、地区で取り組んでいくこと(または予定)	3自治会連合で自主防災組織を組んでいるので(防災倉庫も共有している) 今後は密にしていきたい。 毎年の総会時に地震や津波に関する防災ビデオを鑑賞して防災意識を高めていきたい。 旧式拡声器を両手の使える新しい拡声器にしたい。				

6. 訓練後アンケート結果

※アンケート回答数 772 件 ※各項目で、小数点以下第2位を四捨五入しているため、100%にならない場合があります。

1. 回答者の内訳（自治会、年齢、性別、家族構成）

【お住まいの自治会】

大須賀自治会	59	7.6%
蓬萊自治会	51	6.6%
宮ノ浜自治会	21	2.7%
糺自治会	51	6.6%
東出自治会	88	11.4%
船津北自治会	23	3.0%
船津南自治会	15	1.9%
船津浜自治会	23	3.0%
日限自治会	179	23.2%
藤白北自治会	102	13.2%
藤白南自治会	160	20.7%
合計	772	100.0%

【年齢】

10歳未満	1	0.1%
10代	1	0.1%
20代	6	0.8%
30代	33	4.3%
40代	87	11.3%
50代	112	14.5%
60代	177	22.9%
70代	204	26.4%
80代以上	143	18.5%
無回答	8	1.0%
合計	772	100.0%

【性別】

男	359	46.5%
女	403	52.2%
無回答	10	1.3%
合計	772	100.0%

【ご自宅での家族構成】

単身世帯	164	21.2%
夫婦のみ	229	29.7%
2世代世帯（親と子）	286	37.0%
3世代世帯（親と子と孫）	52	6.7%
その他	24	3.1%
無回答	17	2.2%
合計	772	100.0%

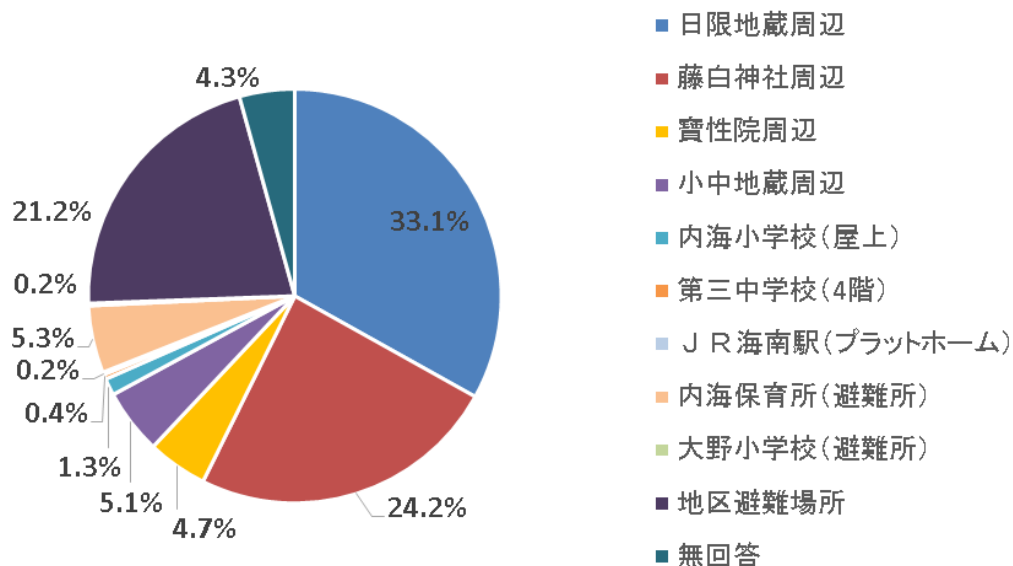
2. 訓練への参加状況

【11月12日（日）に実施された津波避難訓練に参加されましたか？】

参加した	532	68.9%
参加しなかった	203	26.3%
無回答	37	4.8%
合計	772	100.0%

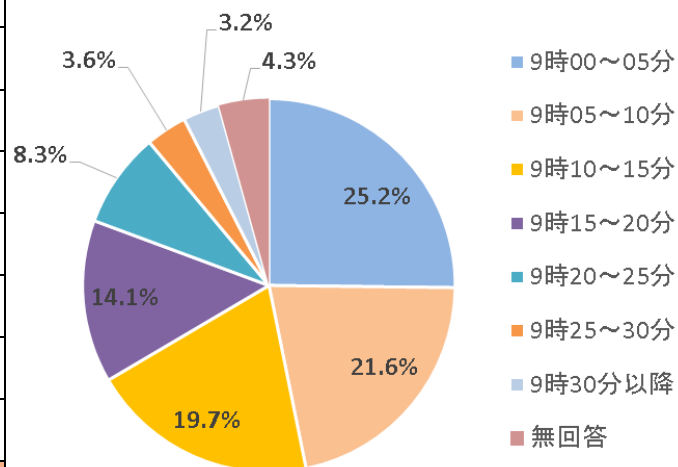
【訓練当日に避難した避難場所】

日限地藏周辺	176	33.1%
藤白神社周辺	129	24.2%
寶性院周辺	25	4.7%
小中地藏周辺	27	5.1%
内海小学校（屋上）	7	1.3%
第三中学校（4階）	2	0.4%
J R海南駅（プラットフォーム）	1	0.2%
内海保育所（避難所）	28	5.3%
大野小学校（避難所）	1	0.2%
地区避難場所	113	16.4%
無回答	23	4.3%
合計	532	100.0%



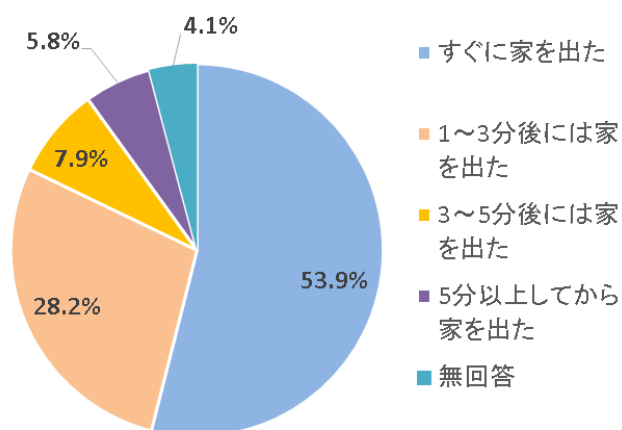
【今回の訓練では、避難場所に何時ごろ到着しましたか？】

9時00～05分	134	25.2%
9時05～10分	115	21.6%
9時10～15分	105	19.7%
9時15～20分	75	14.1%
9時20～25分	44	8.3%
9時25～30分	19	3.6%
9時30分以降	17	3.2%
無回答	23	4.3%
合計	532	100.0%



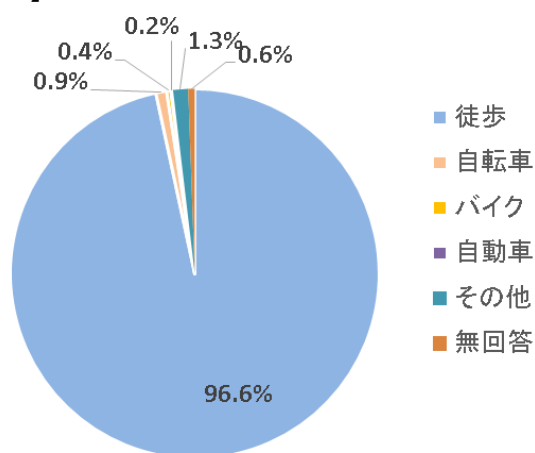
【避難訓練の開始の放送があった後、すぐに家を出ましたか？】

すぐに家を出た	287	53.9%
1～3分後には家を出た	150	28.2%
3～5分後には家を出た	42	7.9%
5分以上してから家を出た	31	5.8%
無回答	22	4.1%
合計	532	100.0%



【避難場所まで、どのような方法で避難しましたか？】

徒歩	514	96.6%
自転車	5	0.9%
バイク	2	0.4%
自動車	1	0.2%
その他	7	1.3%
無回答	3	0.6%
合計	532	100.0%

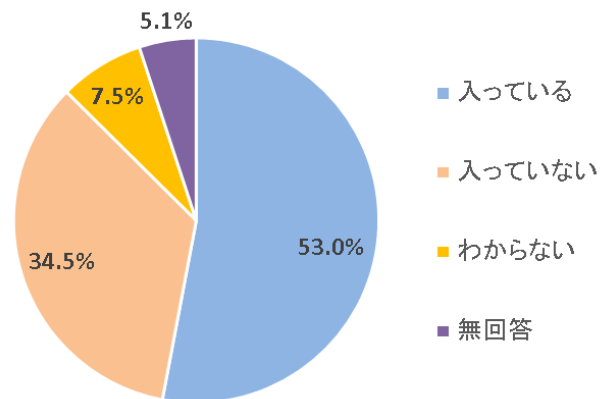


- ・約8割の住民が津波警報発表後、20分以内に避難場所に避難完了している
- ・避難場所までは、9割以上の住民が徒歩で避難している

3. 地震・津波に対する認識と危機意識

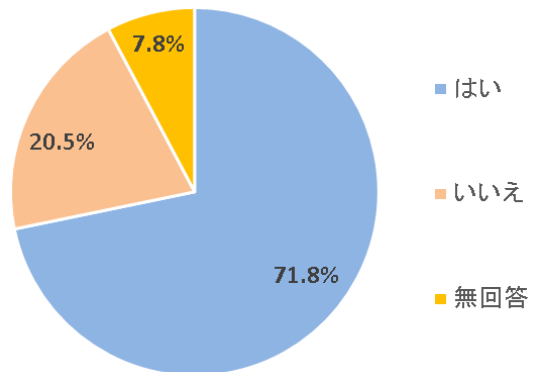
【ご自宅は、津波による浸水想定区域の中に入っていますか？】

入っている	409	53.0%
入っていない	266	34.5%
わからない	58	7.5%
無回答	39	5.1%
合計	772	100.0%



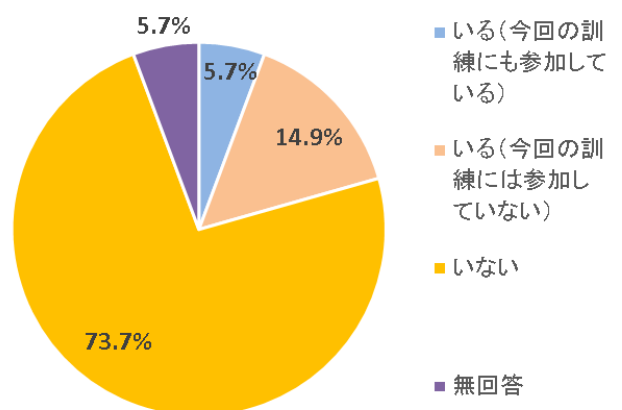
【今回、避難した場所以外に、他の避難場所も知っていますか？】

はい	554	71.8%
いいえ	158	20.5%
無回答	60	7.8%
合計	772	100.0%



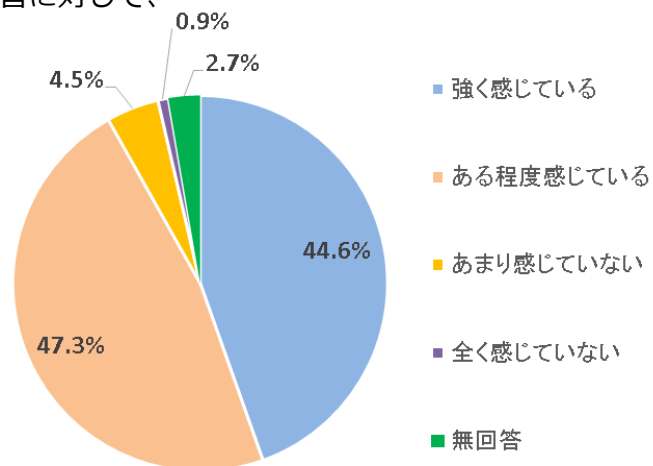
【ご家族の中に、自分で徒歩によって避難場所まで行くことができる方はいらっしゃいますか？】

いる（今回の訓練にも参加している）	44	5.7%
いる（今回の訓練には参加していない）	115	14.9%
いない	569	73.7%
無回答	44	5.7%
合計	772	100.0%



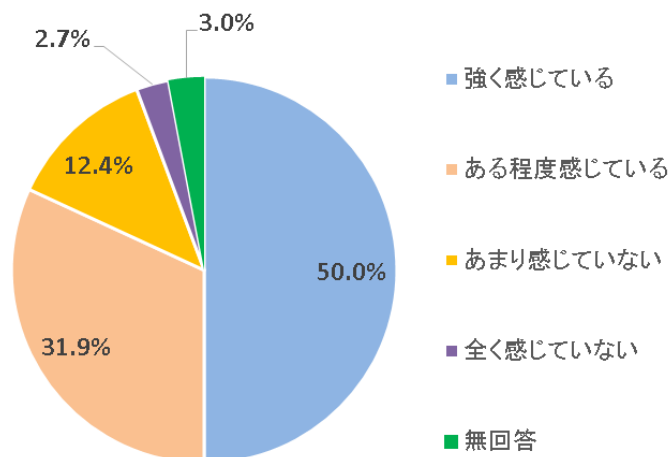
【南海トラフ地震の揺れによる住宅・建造物の被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	344	44.6%
ある程度感じている	365	47.3%
あまり感じていない	35	4.5%
全く感じていない	7	0.9%
無回答	21	2.7%
合計	772	100.0%



【南海トラフ地震の後に発生する津波による被害に対して、
どの程度危機感を感じていますか？】

強く感じている	386	50.0%
ある程度感じている	246	31.9%
あまり感じていない	96	12.4%
全く感じていない	21	2.7%
無回答	23	3.0%
合計	772	100.0%

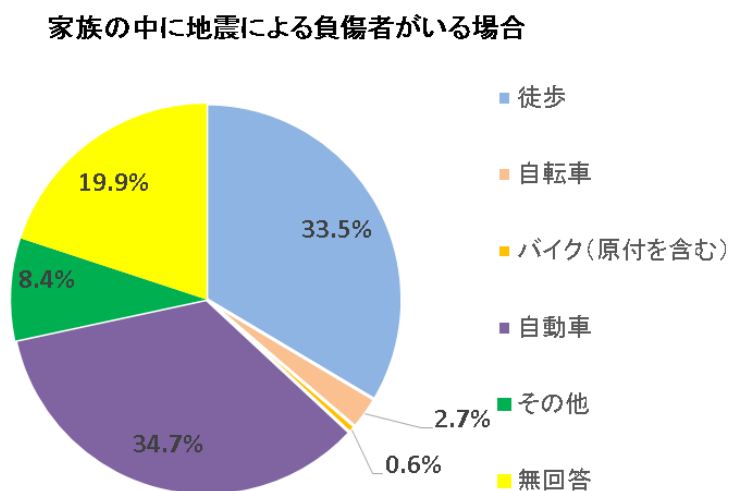
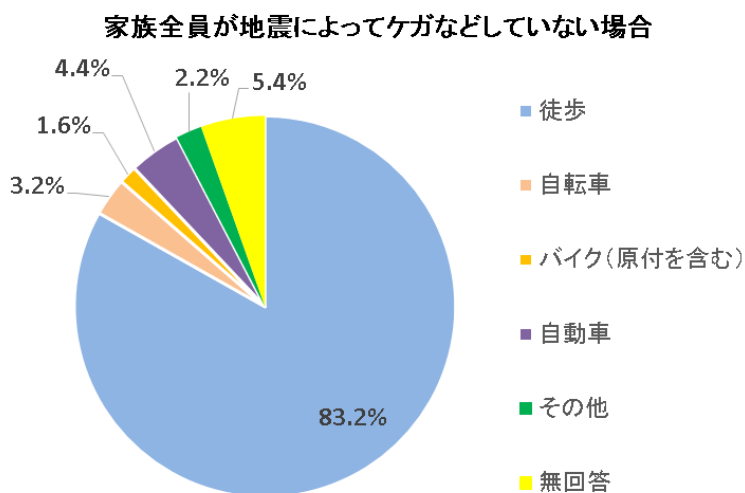


- ・ 自宅周辺の津波の浸水想定について、8割以上の住民が認知している
- ・ 自宅周辺の津波避難場所について、7割以上の住民が認知している
- ・ 家族の中に、自力で徒歩で避難場所まで行けそうにない人がいる住民が約2割いる
- ・ 南海トラフ地震について、地震の揺れは9割以上の住民が、津波は8割以上の住民が危機感を感じている

4. 実災害時の避難の想定と問題点の認識

【ご自宅で家族全員がいるときに大きな揺れを感じる地震が発生し、大津波警報が発令された場合、実際には、どのような手段で避難しますか】

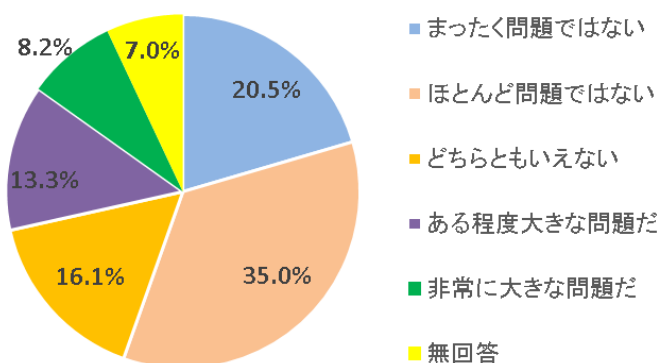
	家族全員が地震によってケガなどしていない場合		家族の中に地震による負傷者がいる場合	
徒歩	642	83.2%	259	33.5%
自転車	25	3.2%	21	2.7%
バイク（原付を含む）	12	1.6%	5	0.6%
自動車	34	4.4%	268	34.7%
その他	17	2.2%	65	8.4%
無回答	42	5.4%	154	19.9%
合計	772	100.0%	772	100.0%



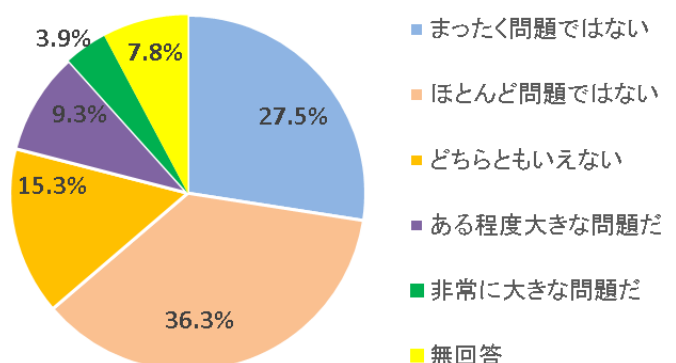
【大きな地震が発生した後、あなたと同じ場所に住んでいる家族でいっしょに津波から避難するとき、以下の項目は、どの程度、避難を困難にさせる問題だと思いますか】

	まったく問題ではない	ほとんど問題ではない	どちらともいえない	ある程度大きな問題だ	非常に大きな問題だ	無回答	合計
自宅から避難場所までの距離	158	270	124	103	63	54	772
	20.5%	35.0%	16.1%	13.3%	8.2%	7.0%	100%
自宅から外に出るまでに時間がかかること	212	280	118	72	30	60	772
	27.5%	36.3%	15.3%	9.3%	3.9%	7.8%	100%
道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること	64	114	194	164	162	74	772
	8.3%	14.8%	25.1%	21.2%	21.0%	9.6%	100%
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること	75	93	182	165	160	97	772
	9.7%	12.0%	23.6%	21.4%	20.7%	12.6%	100%
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること	77	139	209	160	106	81	772
	10.0%	18.0%	27.1%	20.7%	13.7%	10.5%	100%
避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと	166	190	177	102	70	67	772
	21.5%	24.6%	22.9%	13.2%	9.1%	8.7%	100%
周囲の人に対して、避難の支援をすること	83	145	266	99	87	92	772
	10.8%	18.8%	34.5%	12.8%	11.3%	11.9%	100%

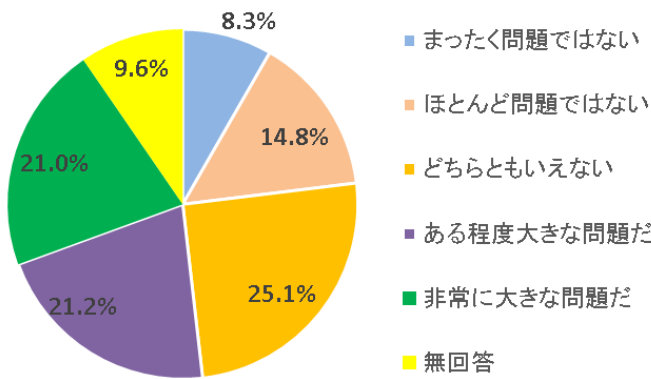
自宅から避難所までの距離



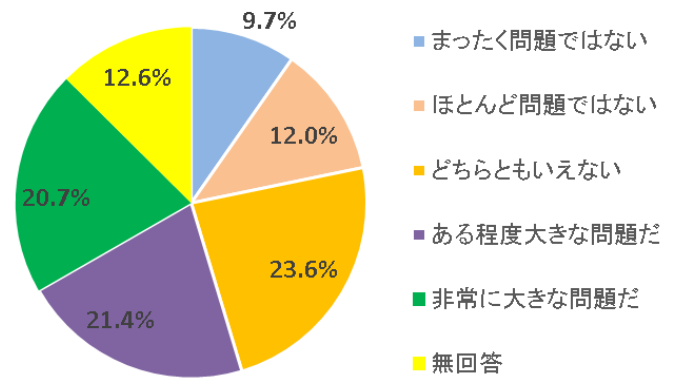
自宅から外に出るまでに時間がかかること



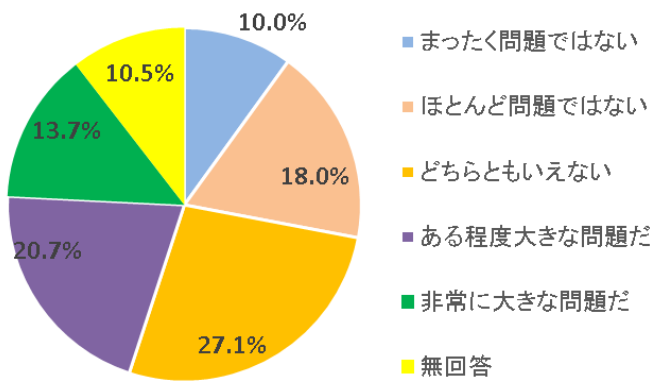
道路がこわれて、徒歩では避難しづらくなっていること



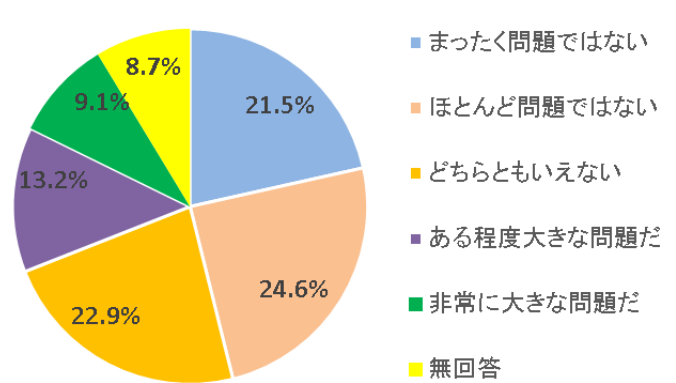
道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること



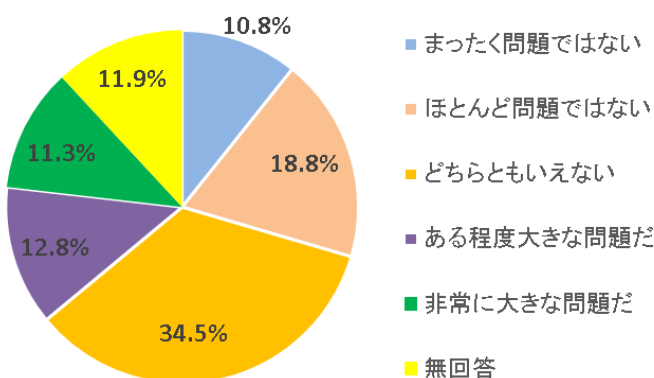
避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること



避難する時に、誰かに支援してもらわなければならないこと



周囲の人に対して、避難の支援をすること



- ・地震発生後の避難の手段について、家族に負傷者がいない場合は8割以上が徒歩を想定しているが、負傷者がいる場合は徒歩での避難が約3割になり、自動車での避難が3割を超えている
- ・「道路が壊れて、徒歩では避難しづらくなっていること」、「道路が壊れて、自動車では避難できなくなっていること」は約4割、「避難する人が多くいるために、通行しづらくなっている場所があること」は3割を超える住民が避難を困難にさせる問題と感じている。

7. 研修会及びアンケートのご意見・ご要望への回答について

平成 29 年度地域防災活動支援事業を実施するなかで、内海地区の皆様よりいただきましたご意見・ご要望への回答を以下にまとめました。

ご意見・ご要望の内容から分類した項目ごとに、基本的な考え方やご対応いただきたい点、市の施策・方針などを示しています。

今後の地区・ご家庭で防災活動に取り組む際の参考としていただきますよう、お願い申し上げます。

1. 地域の防災体制や取り組みについて

(1) 避難先の用途に応じた避難について

地震・津波などの災害が発生した場合の避難先については、用途に応じて「避難場所」と「避難所」に分けられます。

避難場所…災害による危険から身を守るために、一時的に避難する場所

避難所 …住居の被災または被災するおそれがあることにより避難生活を送る場所

地震・津波からの避難に当たっては、避難場所に避難し安全を確保したのち、自宅が安全な場合は帰宅し、安全が確保できない場合は避難所などへ再度避難（二次避難）する必要があります。

なお、市で整備する避難場所のうち、津波に対するものは「津波避難場所」と「津波緊急避難ビル」に分けられ、「津波緊急避難ビル」は津波の到達までに浸水が想定される区域外へ避難できない場合の避難場所となります。

津波から避難する場合は、可能な限り「浸水想定区域外」の「津波避難場所」などに避難してください。

(2) 二次避難について

避難所への二次避難の基本的な考え方として、道路への浸水・がれきの堆積などの面から、浸水が想定される区域を通らずに避難できる経路を選択します。

内海地区については、津波避難場所への避難後に、浸水が想定される区域を通らずに二次避難（避難所への避難）することが可能です。二次避難先として想定される内海保育所は、内海地区内にある唯一の避難所であることから、避難者が集中することが予想されます。内海保育所への避難にあたっては、移動が困難な要配慮者を優先していただき、体力に余裕のある方は、「大野公民館」や「大野小学校」、「県立海南高等学校」などの周辺地区の避難所への避難をお願いします。また、避難先については、自宅や知人・親戚宅も有効です。

(3) 安全な避難経路の確保について

避難場所までの避難経路については、配布した「わが家の避難マップ」に記載のある「避難時に注意を要する箇所」の確認や、実際に避難経路を歩くなどして、注意すべき箇所や通行不可となる可能性がある箇所などを事前に確認しておき、複数の避難経路や避難場所について所要時間も含め検討するなど、ご準備をお願いします。

また外出時に災害が起こる場合もあります。普段立ち寄る所などが津波浸水想定区域である可能性もありますので、津波ハザードマップで津波避難場所等を把握し、津波避難場所や避難経路の確認をしてください。

(4) 要配慮者の支援について

要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児など）の避難支援については、支援する側と支援を受ける側のそれぞれの意識や取組が必要となります。

支援する側	…近隣の要配慮者を把握し、見守る意識を持つ
支援を受ける側	…周囲に対して支援が必要であることを意思表示する

災害時の避難支援の実効性を高め、円滑に行うためには、平常時から気軽に話し合える関係を築くことが重要です。そのうえで、具体的にどのような支援を行うか（受けるか）を話し合い、災害時には支援する側の身の安全が確保できる範囲内で支援を行ってください。

単位自治会人数が少ない等で要配慮者支援が難しい地区については、近隣自治会と連携した取組もご検討ください。

また、市では自治会・自主防災組織を対象に、「避難行動要支援者名簿」（要配慮者のうち情報提供の同意を得たもの）の提供を行っていますので、地区でご協議のうえ、高齢介護課までご相談ください。

(5) 物資・資機材の整備について

市の避難場所は「緊急的」「一時的」に避難する場所として、短期間の滞在を想定しています。この間に必要となる物資や資機材については、基本的には各家庭の非常用持出品及び自主防災組織の備蓄で対応いただくこととなります。また、トイレについても各家庭及び自主防災組織で整備したトイレ袋等で対応いただくようお願いします。

なお、避難場所に備蓄する物資・資機材のほか、要配慮者の避難支援のための車椅子やヘルメットなどの整備に要する経費については、「自主防災組織育成補助金」の対象となりますので、活用を検討される場合は、自主防災会でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。

(6) 防災体制の整備と防災活動について

防災に対する研修や課題に応じた訓練などは、地区の皆様の防災意識（自助）の向上や地域の防災力（共助）を高めることにつながるため、積極的に実施してください。

取組が進んでいないと思われる地区におきましても、話し合いや訓練等で出た課題を解消するための取組から少しずつ進めてください。

組織力を高める手段の一つとして、防災リーダー（防災士）を育成することも有効です。防災士の資格取得費用については「自主防災組織育成補助金」の対象となりますので、ぜひご活用ください。

また、市では地区ごとの津波の避難計画の作成を推進しています。作成を検討される場合は、地区でご協議のうえ、危機管理課までご相談ください。

避難路・避難場については、いざと言うときに迅速に避難することができるよう、日頃から維持管理に努めましょう。

2. 市の防災施策・方針について

(1) 避難場所・避難所・避難路の整備について

避難場所周辺の避難誘導灯・避難誘導看板の整備については、各避難場所ごとに年次的に整備を進めており、未整備分が完了したのち、再度の整備等について検討します。

避難場所及び避難路の舗装・段差解消や手摺の設置などにつきましては、危機管理課または建設課までご相談ください。

(2) 地震による建築物等の倒壊・崩壊対策について

地震による倒壊・崩壊のおそれがある空き家、未耐震の住宅、がけ地・急傾斜地について各担当課（下記参照）にて対応いたしますので、地区でご協議のうえ、ご相談ください。

空き家対策、住宅の耐震対策…都市整備課

がけ地・急傾斜地 …建設課

(※がけ地・急傾斜地の整備は和歌山県の事業となるため、建設課でとりまとめ、和歌山県に要望します。)

(3) プレジャーボート対策について

市では、海南市水域におけるプレジャーボート等放置艇対策として、市内沿岸部4カ所（築地・日方・冷水・下津）に小型船係留施設及び駐車場等の整備を進めています。

お問い合わせやご要望がある場合は、地区でご協議のうえ、管理課までご相談ください。

(4) 風水害時の浸水対策について

対応や方針を検討いたしますので、地区でご協議のうえ、建設課までご相談ください。

(5) 防災行政無線の難聴対策について

市では、防災行政無線の放送内容を、放送後の1時間程度の間、電話で確認できる「電

話案内サービス（フリーダイヤル、☎0120-170089）」を実施していますので、防災行政無線が聞き取りにくい場合は、ご活用ください（通話料は無料です）。なお、放送後1時間以上の経過や新たな放送があった場合は、放送内容が消去・上書きされますのでご注意ください。

また、市のメール配信サービスでも放送内容を確認することができます。登録を希望される場合は、危機管理課までご相談ください。

なお、災害情報は、上記のほか、地デジデータ放送、市ホームページ、フェイスブック、エリアメール・緊急速報メール（避難勧告・避難指示（緊急）のみ）等で確認できます。

（6）その他の防災に関する意見・要望について

上記以外の防災に関する意見や要望がある場合は、危機管理課までご相談ください。